

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**【児童について】**

- ・ 基本的な生活習慣の定着が進んできているが、保護者の支援を受けられない児童も存在している。
- ・ 全学年、自己肯定感が向上してきており、落ち着いた学校生活を送っている。
- ・ 29年度特別支援教室申請児童は10名。申請児童以外にも支援の必要な児童は多く在籍している。
- ・ 中国からの転入者が増加。日本語適応指導終了後も習熟が十分でない状況。

【教職員について】

- ・ 主幹教諭・主任教諭による企画調整会議が校務運営の基礎となり、異動者の経験と能力を校内に般化させ、組織的に対応できるシステムを整えてきている。

【保護者・地域について】

- ・ 学校の経営計画や課題を理解し、開かれた学校づくり協議会を中心に、PTAOBやPTA役員も積極的に支援体制を組んで参画している。28年度は創立20周年記念式典を挙行了。実行委員会として地域や保護者の協力・支援を受け、無事挙行することができた。

【前年度の成果と課題】

①基礎・基本の定着

- ・ 当該学年で習得すべき内容の8割を定着させる目標についてはステップアップテストにより進行管理を行い、達成することができた。ポートフォリオ、SP表に基づく学力調査結果の分析と改善を行った。未達成の児童については放課後の補習、土曜日授業、桜花基礎学習教室等で対応した。
- ・ 保護者への啓発として家庭学習週間を設定し、新しい家庭学習時間の内容と目安を提示した。

②自己肯定感の向上

- ・ 読書活動、人権を大切に教育や挨拶運動、「一日一賞賛運動」を進め、心豊かに生きる力をつけることを重視した。自己肯定感調査で効果測定を行った。9割の児童が自己の価値を認めることができた。

③健康な体づくりと体力向上

- ・ 基本的な生活習慣は向上している反面、流行性疾患・体調不良・土曜授業日の欠席数の増加があったが、全体としては欠席者数の前年比減となった。
- ・ 持久力の向上が課題となっており、持久走週間、縄跳び週間等、一定期間集中的に運動に取り組むことにより、児童の運動に関する意欲向上につながった。

④小中連携活動の推進と学力向上

- ・ 授業研究、研究授業に向けての事前研究など、小中の学びが連続する取組の推進。「活用力」を重視した教科授業研究を行い、小学、中学校それぞれが主体的に関わる研究会を実施することができた

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 学力向上（基礎的・基本的な学習内容の定着）**

- ・ 基礎的な学習内容の定着とつまずきの解消を図る取組みを進め、校内学力再調査を行って習熟度を測定。
- ・ 国語と算数の単元テストの8割以上の内容を8割以上の児童に定着させた。
- ・ 桜花ステップアップテストを活用して基礎学力の定着させる。
- ・ 補習教室を充実させて、必要な児童への支援を行う。
- ・ 家庭学習のめやすを改訂し、集中できる時間と内容を示し、家庭での学習確保に努める。

重点的な取組事項－２ 心の教育と自己肯定感の育成

- ・自己肯定感調査を実施し、必要な児童に対してSCによる面接を実施。
- ・人権と大切にすることを進め、校内・郊外における挨拶運動の推進
- ・言語活動推進のため、読書環境を充実させるとともに読書目標値を示して読書を奨励。

重点的な取組事項－３ 小中連携の授業研究で伸ばす 思考力・判断力・表現力

- ・言語活動の推進を図る小中連携活動を推進するため、年間８回の連携協議会を実施する。
- ・授業改善を目指す小中交互の全校授業公開と協議会を実施する。
- ・授業交流を通して、外国語活動と英語学習、各教科の学びが連続する言語活動の推進を目指し、思考力・判断力・表現力を９年間のサイクルで育てる。
- ・行事交流を継続する。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１ 基本的・基礎的な学習内容の定着

- ・４月調査では目標値通過率６６．７％となり、目標であった７２％を大きく下回った。国語においては「読む能力」「書く能力」について課題が残っている。算数については「数量や図形に関する知識理解」に課題が残った。２９年度は、前学年の躓き解消に力を入れる取り組みを前期中までに完了し、後期は、当該学年の躓きに焦点化して実施。
- ・単元テストの８０点以上の達成率は、国語８４％、算数８０％であり、ともに前年度より定着が進んでいる。
- ・２９年度は短縮時程を減らし、指導時間を増加させる。

重点的な取組事項－２ 自己肯定感が豊かな児童の育成

- ・児童の自己評価による地域での挨拶実施率は約９３％と高位である。児童の自主的な式である「挨拶応援隊」を全校朝会で紹介し、啓発を行うとともに、ボランティア人数も増員し、朝会での講話や定期的な振り返りを通して意識化と実践を促してきた。
- ・自己肯定感を高めるために全校で取り組んでいる「一日一賞賛運動」は様々な呼名や形式で実施されており、実施割合は９割を越えている。読書活動は３月末までに８割を達成する見込みである。ボランティア活動は計画通りに実施でき、自分の良さを人のために生かす気持ちを育むことにつながっている。地域清掃活動は、クリーンデイの取組として各学級で実施することができた。自己肯定感については、児童への調査を行うとともに、結果を担当やスクールカウンセラーと共有し、必要な児童に対しては適時状況を確認することを行ってきた。特別支援教育の推進については、城北特別支援学校の児童と直接交流を実施し、行事のみならず通常の授業への参加も回数を増やすことができた。

重点的な取組事項－３ 小中連携で伸ばす思考力・判断力・表現力

- ・担当者間の授業の交流を進め、各教科においては、活用力を踏まえた授業研究を実施。研究軸となる「読むことを通して思考力や表現力をつけさせる」ために「言語活動に着目した授業研究」に関して協議を深めることができた。今後、より検証を深めるために指導方法や、授業の展開方法を工夫していく。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

○児童には学習場面に合わせて目標をもたせ、その達成にむけて努力させることを大切にしてきました。互いの良さを認め合い助け合って生きる知恵を身につけるために自己肯定感を高める活動や読書活動を大切にしてきました。健康な体づくりのために、基本的な生活リズムを整え、運動面では自己の目標を決めて記録を伸ばすことに挑戦させてきました。学習したことの８割以上を身に付けること目標にして、様々な取り組みを行ってきました。これらの教育活動は、学校だけで完結できるものではありません。家庭の協力が不可欠です。

今年度も、教職員の放課後学習の継続をはじめ、PTA役員・保護者の皆様・開かれた学校づくり協議会委員やPTAOB会の皆様の御支援で、土曜授業や桜花基礎学習教室への学習支援ボランティアを充実することができました。学力調査の結果からも、基礎学力定着取組を維持し、結果に結びついていると思われます。あらためてご協力いただいたことに感謝いたします。

①桜花基礎学習教室を継続し、基礎学力の定着を進めます。

学習ボランティアへのご協力をお願いします。

②地域での挨拶率をもっと高めます。

「挨拶応援隊」へのご協力をお願いします。保護者の方も積極的にあいさつをしましょう

③御家庭にお願いしたいことは

○基本的な生活習慣の定着に御家庭の協力が不可欠です。

前日の内に学校の準備をする、夜更かしをしない、朝は決まった時間に起きる、学校へ送り出す等の保護者の皆様からの働きかけが不可欠です。

○家庭学習習慣を確実に身につけさせましょう。

家庭学習時間が大分増えてきました。しかし、まだ定着にはなっていません。小学生の時期が肝心です。生

涯にわたって学ぶ姿勢や習慣を身に付けさせることを目標にしましょう。
 ○努力していることや努力したことを認め、ほめることを大切にしましょう。
 ☆自分に自信と誇りをもち、目標をもって努力する心が育てば、学ぶ喜びを知り、達成感も実感できることでしょう。これからも生き生きと学ぶ子どもたちを育てていくことに、御協力をお願いいたします。

2. 平成29年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、区学力総合調査の目標値の通過率を上げる。	全校平均の通過率を72%とする	4月学力調査結果 学校全体通過率66.7%	今年度目標値72%を大きく下回った。学力定着の取組について再度見直しを行い、修正する。	●

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
「桜花ステップアップテスト」を活用して、国語・算数の基礎学力を定着させる。	80点合格、全児童の9割以上の達成。	<ul style="list-style-type: none"> ○全教員によるスキルタイム指導の実施。 ○小テストやまとめのテストを実施。 ○結果を個人カードに記録し、家庭へ知らせ、連携する。 ○「桜花基礎学習教室」実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○1月時点の達成率 国語 85% 算数 90% で達成予定(予想値) 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の児童の実態からは反復が欠かせない。教職員はもちろん保護者の協力を増やす。 	○
8割の学習内容を児童に対して定着を図る。(国語・算数)	8割の内容を8割以上の児童に定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○4月学力調査結果をSP表分析。 ○放課後補習学習計画を作成。 ○個人学習カルテの見直しと修正。 ○学年ごとに曜日を決めて、全教員による放課後補習指導。 ○7月・10月の学力向上委員会で各学年の進捗状況を把握し、修正策を立てる。 ○そだち指導とも連携体制をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年において学力調査の結果をSP表をもとに分析 ○問題ごとの正答について分析し、具体的手立てを検討し、実施 ○放課後学習指導の実施 ○そだち指導と学級担任との連携促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○反復が必要な実態もあるが、内容と量の検討が必要 	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
前学年のつまずきの解消を図り、基礎学力を積み上げ、当該学年の定着度を上げる。	10月校内調査を行い比較 ○国語・算数 全校平均 総合 10P 向上 2月に校内調査を行い測定 ○国語・算数の正答率 80%。 国語・算数の通過率 75%。	○ステップアップテスト、放課後学習、スキルアップタイム等の担任による指導。 ○そだち指導における3・4年生から抽出した児童への個別指導 ○土曜日学習 ○開かれた学校づくり協議会の協力による、桜花基礎学習教室の実施 ○足立スタンダードによる問題解決型学習スタイルの定着	10月調査結果から 国語% 算数% 全体% 2月校内調査結果 予想値 国語 算数 全体	10月結果は、国語に対して前年度の躓きを解消するための取組が若干ではあるが効果があった。	○

重点的な取組事項－2心の教育と自己肯定感の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感が豊かな児童の育成 心身共に健全で、成長を目指すことのできる児童の育成	○児童アンケート調査、総合 85%以上。 ○持久力自己記録前年より向上、80%以上	○自己肯定感調査3項目ともに 80%を超え、平均 89.9%で達成。 ○持久力自己記録もほぼ 80%達成	S S Wの定期的な訪問が始まり、S Cを含めて連携する機会が増えた。家庭訪問などの支援を受けることで、改善のケースが見られる	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
あいさつ習慣の定着を図る。 人権教育の推進と特別支援教育の推進	○学校外で出会った人に自分から挨拶する 80% ○高齢者との交流を完全実施。 ○副籍制度を活用した特別支援学校との交流を 2回実施 ○29年度特別支援教室の設置	○全校児童朝会で「挨拶応援隊」を表彰して、意識を高める ○児童による挨拶応援隊の実施 ○ふれあい給食への高齢者の招待。 ○特別支援学校児童の直接交流(体育、音楽、図工等) ○特別支援教室設置に向けて、施設設備、教育課程の整備を今年度中に完了。	○地域での挨拶実施状況は「開かれた学校づくり協議会」「挨拶応援隊」からのヒアリングから 80%未達成 ○応援隊は6年生女子で構成。正門と南門の両方で実現 ○交流は予定の機会を超えて4回実施 ○次年度の教室申込希望者は10名	自己評価と外部評価では差が生じている。 副籍交流は本校特別支援学級との間であった。本来の主旨である通常学級との交流を増やす	△
豊かな心を育み言語活動を高める読書活動の推進	低学年 120冊以上 中学年 35冊以上(3500p) 高学年 30冊以上(4500p)	○週3回の朝読書時間の設定。 ○担任や図書ボランティアによる読み語り、全学級2回以上の実施。 ○読書カードへの記録を行い、達成者の学年末表彰を実施。	○達成目標はほぼ完了。内容の充実を目指す		○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
年間を通じての体力づくり 基本的な生活リズムの確立と定着	<ul style="list-style-type: none"> ○持久力向上のため、個人目標達成児童80% ○欠席者数前年度比マイナス100人 ○生活リズム調べによる振り返り実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○縄跳びは週間の設定他、区の標準記録の更新を目指す。 ○持久走は、全国版持久走カードを用いて、強化週間の設定。 ○保健便りを通して、保健指導を行う。 ○見直し月間の設定と振り返り調査の実施。結果は担任より各家庭に連絡し、学校と家庭とが協調した指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○縄跳び 80%を超える達成率 ○カードの利用で達成意欲が向上 ○マイナス100は難しい見込み（予想） ○家庭への情報発信ツールとしては機能している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3月中旬まで継続すると目標値に達する割合も8割を超える見込み。 	○

重点的な取組事項ー3小中連携で伸ばす思考力・判断力・表現力

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学びが連続する環境を構築し、接続を意識した思考力・判断力・表現力の豊かな児童を育成する	○指導案検討や研究授業等による教員交流年間8回以上	○回数は達成。「活用力」を踏まえた実践を行った	○スタンダードについて検討する機会がなかったが、小中連携の観点から問題提起を行うことはできた。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
連携授業研究会を通じての指導法の工夫。	○年間8回の協議会を設定	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職と主任教諭、主幹教諭による連携会議を実施し、進捗状況を確認し推進する。 ○活用力を踏まえた授業展開の手法の研究推進。 ○指導案作成の段階から担当者間で連携をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○連携会議と授業研究は計画通り実施。教科ごとの指導案検討の企画を設定し、小中が接続するため目標と手立てを確認して授業研究を実施することができた。 	○小学校中学校共に、言語活動の充実に視点を絞って実施。学力向上につながる授業研究にすることを意識化。	○
授業・児童・生徒交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○花畑北中学校英語科と本校外国語活動の交流を推進 ○北中生徒会と本校児童の交流によるクリーン作戦の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○花畑北中学校英語科教員によるゲストティーチング。年間2回実施 ○本校児童が中学校生徒会主催のクリーン作戦に20名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語のアドバイザーや中学の英語教員、小学校の担当者の連携が進んでいる ○クリーン作戦では中学校生徒会のイニシアチブが働き、良いロールモデルになった 	○主幹や担当者と中学校の英語担当教員、授業交流、研究授業を通じての交流が増加	○
家庭学習に関するスタンダードの作成	○家庭学習スタンダードの作成。	○連携授業研究会を通じて、小学校、中学校それぞれの必要とされる家庭学習について協議し、検討する。	○「活用力」を踏まえた授業実践にシフトしたため、未達成	○方向性を修正。次年度改める	△

3. 学校活動全般について

○学力向上を図る取り組みを重視し継続してきた。今年度も、「そだち指導」のような躓きの解消を図る取り組みの指定としての経験を生かして、実践を重ねてきた。今年度も学習の積み重ねが強くなっている。特別な支援が必要な児童が増加し、個別対応で指導を行ってきたが、支援に窮しており、緊急の支援を必要としている。総体的には、児童が自己肯定感を高め、自分の目標を明確にもって努力する生活が整ってきていると言える。このことは、全教職員が協働して教育活動にあたり、取り組みを継続させてきた結果である。次年度は、今年度効果のあったことを継続するとともに、以下のことを重点的に充実させたい。

1、基礎的・基本的な学習内容の8割定着をすすめる

3年以上の算数・国語の少人数指導やTT指導で学力定着のデータ化と改善への反映

教科指導員による教員授業力向上（6年次以下の若手教員を対象）

そだち指導によるつまずきの解消（3・4年対象 国語・算数の2教科）

2、定着度を補う補習指導

（1）单元ごとのこまめな補習

（2）既習内容の躓きを解消する補習の充実

①つまずきを少なくして学習の積み重ねを確実にする放課後補習体制の継続

②到達レベルを決めて補習をする開かれた学校づくり協議会による「桜花基礎学習教室」の継続

3、授業規律の定着と授業改善の推進

（1）授業規律の定着

（2）「足立スタンダード」の定着

（3）活用力を伸ばす授業の充実：言語活動を重視

4、読書活動をささえる環境設定の整備。新聞を活用した学習の推進

5、体力向上を図る計画の見直し⇒持久力をよく伸ばす指導

6、言語活動に着目した小中連携の授業研究の推進

○、その他

自己肯定感、自分を愛することのできる児童をさらに増やしたい。地域の支援を更にいただき、花畑で育った児童が成長し、自分が支援できるような環境を整えたい。そのためには挨拶運動を始め、課外活動の実施や、清掃活動、ボランティア活動など、学習面以外で活躍できる場や環境を地域とともに整備し、発展させていきたいと考えている。まだまだ時間のかかる活動ではあるが、学校・地域・保護者の三者で子供を育てる教育の場の一つとなり、地域社会とつながる活動でもあるため、継続していく。